

# 2023

町田市立国際版画美術館  
2023 年度夏期子ども講座 活動報告書

## 妖怪たちの音楽祭

妖怪たちが音楽祭を開いたよ！  
スクリーンプリントでTシャツにオリジナル妖怪を刷ろう！



町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、さまざまな版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなったことから、昨年より制作時間を長くして実施しました。子どもたちが豊かな想像力や発想力を発揮できるように「妖怪たちの音楽祭」をテーマにしました。どうぞ講座内容をご覧ください。

### 講座概要

タイトル：「妖怪たちの音楽祭 ～妖怪たちが音楽祭を開いたよ！スクリーンプリントでTシャツにオリジナル妖怪を刷ろう！～」  
内容：感光法(写真製版法)で作られたスクリーンの版を使って、紙やTシャツにオリジナル妖怪を刷る  
日時：第1回 7月29日(土)、第2回 7月30日(日) 10:30～15:30 途中休憩を含む  
会場：町田市立国際版画美術館 アトリエ・版画工房  
対象：小学3～6年生 定員:15名(各回) (応募者数:1回目22名、2回目26名)、受講料:2,000円  
指導：東京学芸大学 清野泰行および同大学在学学生 \*Tシャツ代金を含む  
募集期間：6月13日(火)正午～7月10日(月)  
主催：町田市立国際版画美術館 企画/協力: 国立大学法人東京学芸大学

## スクリーンプリントとは

木やアルミの枠に目の詰んだテトロン（ポリエステル）などの化学繊維を張り、インクを通過するところと通過しない部分を作って版を作り、スキージー（幅の広いへら）で、インクを通過させることで紙や布などに図柄を写す版画技法。かつては枠に絹を張っていたため、シルクスクリーンとも呼ばれる。

- 準備するもの 【下 絵】：下描き用紙（受講者に事前送付・画面サイズ：18cm×14.5cm）、オリジナル図案集  
【原稿作り】：マットフィルム（背景用・妖怪用1人各1枚）、水性顔料ペン、マスキングテープ  
【版作り】：版（アルミ枠、テトロン150メッシュ、1人2枚）、感光乳剤、ドライヤー、感光機、他  
【刷り】：刷台（表面：Tシャツ用、裏面：紙用、版がしっかりとまるように手前と奥にL字状のバーが付いている）、ダイカラー（水溶性スクリーンプリント用インク）、Tシャツ（1人1枚）、版画用紙（八切1人3枚）、紙スキージー、スプーン、紙ベラ、紙コップ、他

## スクリーンプリントの版制作

### 原稿作りの説明

（10分）

### 原稿作り

（45分）



【スクリーンプリント技法の説明】事前に描いて来た下絵から原稿を描き起こす手順をプロジェクターも使ってわかりやすく説明した。また、用意したオリジナル図案集も下絵の参考にしてもらった。



【原稿作り】下絵に半透明のフィルムをのせ、光を通さないペンでなぞったものを原稿とした。背景と妖怪の2版を使うため、フィルム原稿もそれぞれに分けて描いてもらった。

### 版作り

（感光作業）

（1セット10分×5回）



【感光の準備】直射日光が入らない部屋で、事前に感光乳剤を塗った版にフィルム原稿をテープで留める。この後、暗室に版を持っていき、大型感光機で6枚ずつまとめて感光（紫外線を当てる）した。



【版の完成】原稿側から紫外線を当てた後、版を水洗いすると、ペンで描かれた部分の乳剤は感光されず水に流れ、抜けてしまう。それ以外の部分は光が通過し感光乳剤が硬化して残る（青い部分）。

### 刷りの準備

（10分）



【刷りの準備】昼食後、出来上がった版の裏側の枠にクッション（スチレンボード2cm角・7mm厚）を貼る。これによって、刷りのときに版と布・紙に隙間ができ、図柄をシャープに美しく刷ることができる。



【紙を置く位置を決める】刷台の上に背景の原稿を貼った紙をのせ、紙の両端に付けた持ち手を使い、原稿と版の図柄がピッタリ合うように動かす。位置が決まったら紙の角端に見当ガイドを貼り付ける。

## 背景の版と妖怪の版の刷り

### 刷りの練習 (15分)



【紙を置く練習】紙への刷りでは、刷台に貼り付けた3つの見当ガイド(写真の水色部分)に合わせて紙を置く。版画用紙を常にガイドに合わせて同じ位置に図柄を何枚でも刷ることができる。



【刷りの練習】インクを刷る前に、Tシャツと紙への刷り練習を行った。スキージーは手前に動かすだけでなく、版と布・紙が接するように、下方向に押さえつけながら刷る必要がある。

### 本刷り (90分)



【グラデーション】背景は黄色をベースに赤系と青系のグラデーション2種類を用意した。子どもたちは自分の絵に合わせてどちらかを選んでスクリーンプリントを楽しんだ。



【背景の版の刷り】Tシャツの刷りでは、写真のように図柄が来るところをテープで囲い、その中に版の図柄が収まるように、目で位置を合わせた。背景のグラデーションを刷ったら、次は妖怪の刷りだ。



【妖怪の版の刷り】スクリーンプリントは、木版などと違い、紙や布などの上に版をおいて刷るのが特徴である。版を持ち上げると、妖怪の細かい図柄があっという間に刷られているので不思議だ。



【作品選び】インクの写り具合や力加減によって刷り上がりは若干違う。作品選びができるのも版画の特徴である。子どもたちが自分の作品のどこを評価して選んだのか、指導者も知ることができる。

### 記念撮影



#### 【第1回の受講生のみなさん15名】

紙だけでなくTシャツにも印刷することで、作品を身につけて楽しむ要素も取り入れた。紙のように何枚も刷ることができないため、Tシャツの刷りには特に気を使って指導にあたった。最後に完成したTシャツを着て美術館のロビーで記念撮影を行った。子どもたちの明るい表情から達成感、満足感が伺えることができた。



#### 【第2回の受講生のみなさん14名】



# 『妖怪たちの音楽祭』展 受講生と指導した学生の合同展覧会

会 期：2023年8月8日(火)～12日(土) 10:00～17:00

※ 8/8は13時より、8/12は15時まで

会 場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室



受講生29名の紙作品は簡易額装し壁面に、Tシャツ作品は天井から吊り下げて展示し、子どもたちのアイデアや制作を通して感じたことなどが分かるように下描き用紙と感想文も飾った。また、スクリーンプリント技法の制作工程の説明としてビデオ上映とパネル展示を行った。特に子どもたちの活動を工程順に紹介したビデオは好評だった。さらに、指導にあたった大学生16名の版画作品も展示した。期間中、前年よりも多い450名が子どもたちの作品を鑑賞した。



【パネル展示】本講座は小学生を対象としているため、活動の様子を友達が見ても理解できるようにパネル展示とビデオ上映を組み合わせることで内容を表した。また、パネルは楽しい雰囲気を出すためにイラストも加えた。

Tシャツは観賞用というより実用的であることから、出来上がったTシャツを着て、思い思いのポーズをしてもらい撮影することにした。



【受講生作品の展示】紙作品は簡易額装をして、下描き用紙・感想文と共に壁に展示した。子どもたちがどのようなイメージや思いを持って制作したのかが分かり興味深い。



【ビデオ上映】制作の様子を工程順に編集したビデオを上映することで、子どもたちがどのようにスクリーンプリントを楽しんだのか、表情の変化からも知ることができた。



【学生の作品展示】指導にあたった学生作品も会場に展示することで、スクリーンプリント、銅版画や木版画など、多種多様な版画表現の紹介も兼ねることができた。

## 受講生の声 (感想文より一部抜粋)

▶Tシャツや紙にグラデーションができるのが楽しかったです。(3年) ▶ちょっとするのがむずかしかったけどすごい楽しかったし、ものすごくおもしろかったので、またやってみたい(3年)▶わたしが1番楽しかった作ぎょうは、する作ぎょうです。理由はする時に力をこめて、自分の方にもってくるのが楽しかったからです。(3年) ▶世界で一つだけのTシャツが作れてうれしかったです。後、お姉さんがやさしく教えてくれたので上手にできました。次も来たいです。たのしみです。わくわく!(4年) ▶上手にできたり、お友だちとあえたり、お姉さんもやさしくてたのしかったです。できたら、みんなに見せたいです。(4年) ▶ようふくで版画はやったことがないので、できるかどうかわからなかったけど、できたらこのようふくをきて見たいなと思いながら作りました。(4年) ▶めくったときにみえたものがきれいだったときうれしかった。お父さんよろこんでくれるといいな。(5年)▶いろいろな先生たちがやさしく教えてくれたり、親切に教えてくれるのでとてもわかりやすかったです。前で版画をどうすればいいのかスライドでわかりやすく説明していました。(6年)

指導した学生 岩崎 さくら 大矢 夏穂 久保田 美菜  
阪本 裕仁 館澤 舞 澤井 青海 高田 優 中山 結夢 今井 杏奈  
小俣 柚花 楠本 京香 榎山 サフィーヤ 美心 今野 春花 波多 汐音  
鶴野 心花 宮崎 すみれ 山本 明 渡邊 天音

2023 年度「夏期子ども講座」活動報告書  
発行年月日 2023 年 10 月 31日  
編集・印刷 東京学芸大学版画研究室 清野 泰行  
発 行 町田市立国際版画美術館